

加茂保育園民営化 土地の無償貸与について

背景：加茂保育園民営化で8月度臨時議会で方向性が決まり、12月議会で「土地の無償貸付」を可決されました。高志会として、「**保育園の安定的運営**」と、「**市の保育に対する関与**」という理由から保育園土地無償化に賛成をしました。

「**保育の安定的運営**」とは、各年齢別の定員配分と保育上の配置基準が定められており、また、試算されている保育園の建設費2億6000万円の1/4は法人負担である。こういったことから、保育所とは公立、私立問わず、安定的な運営が必然的に求められています。

また、優れた社会福祉法人を呼び掛ける上では、土地の無償化は必要な要素であったと考えます。

「**市の保育に対する関与**」とは、延長保育や自園調理、4，5歳児の複数担任、病児病後児保育などの目に見える保育サービス等の関与以外に、下記に記載している「食へのこだわり、教育方針、対応」など、一見して分かりにくモノも「市の関与」と解釈

12月議会で議論となった加茂保育所の民営化に伴う土地の無償貸し付けについての所感です。

されます。
私たちは、公立保育園から民営化された園の土地を無償貸付しているかどうか大阪府下のすべての自治体に直接電話で聴き取り調査を行い、知り合いの議員などを通じて詳細を確認しました。

調査結果は…

土地の有償貸付・売却……5/29市町村
土地の無償貸付……………21/29市町村

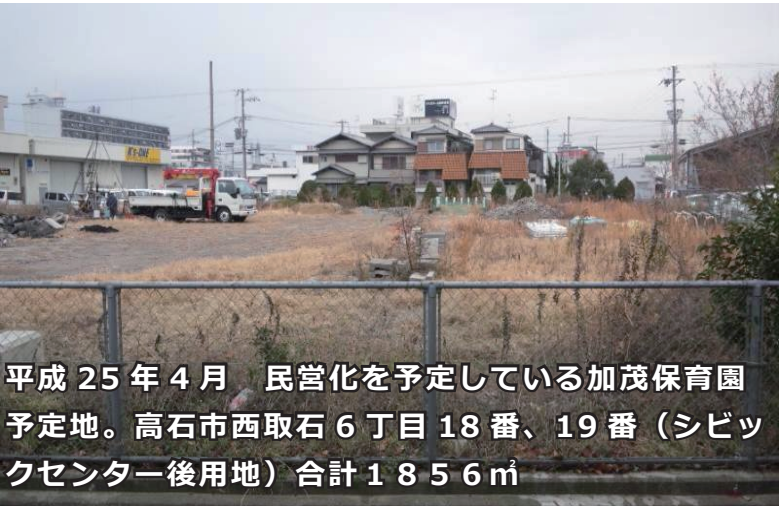
と、なりました。

また、これから民営化を実施する市町村を聞いてみますと、有償で検討している市は和泉市1市のみであり、他の自治体は全て無償貸与でした。

こういった他市の実績も調査し、高志会としては、加茂保育園の民営化によって、土地を無償貸付している分、保育の体質を変えてもらえる可能性を秘めた事業主だと感じています。また、今後加茂保育園の経営が悪化し、保育の質の低下等を招いた場合でも、市の土地であるならば、市にとって適切な対応を取ることも可能となる。

最後に、保育園民営化で不安な思いをされている保護者の方もおられると思います。進めるスピードは例外的に速いわけですから。だからこそ、保育の質をより高くし、保護者の方が「通わせてよかった」と思ってもらえるような保育園にしていかなければなりません。そのためにも「**市の関与**」を果たすうえで、**土地の無償貸付**という選択は最低限の条件であると高志会は考えます。

文：松本



平成25年4月 民営化を予定している加茂保育園
予定地。高石市西取石6丁目18番、19番（シビック
クセンター後用地）合計1856㎡

食育の充実を志す保育園

「子どもが食べたいもの」ではなく、玄米やヒジキなどの「子どもに食べさせたいもの」を子どもが喜んで食べる教育

肥満・偏食が原因とされる生活習慣病などの増加、朝食を摂らない子どもの増加、食品添加物の危険性、増加傾向の食物アレルギー、家族での食事の機会の減少、孤食の増加など、昨今の子どもたちを取り巻く食生活の荒みは大きな社会問題となっています。

保護者のライフスタイルも変化しており、自然食材を使ったり、ひと手間かけておかずを一品増やしたりなどのゴハン作りは必要とは分かっている、なかなか毎日できるものでもありません。

しかし、**少しだけ意識を食生活に向け、少しだけ変化を与えてあげることで、子どもたちの食生活は大きく変わります。食生活が変わると、素材本来の味を覚え、好き嫌いが少なくなります。**

平成25年4月から民営化される加茂保育所を運営する予定の「みなまつ保育園」の応募要項に「食育へのチカラの入れ方」が熱く書かれていたことに心を惹かれ、和泉市へ見学に行ってきました。

その応募申請資料には、「**食育に力を入れ、ハンバーグやカレーなど一般的な子どもの好きなモノはあまり食べさせない。無農薬**

野菜と玄米を仕入れ、その日に精米し新鮮なお米を子どもたちに味わってもらおう。」など、熱い思いで書かれていました。



現場での園長先生とのヒアリングも「子どもたちに喜んでもらうために…」という行政や保護者に阿る姿勢は一切なく、子ども

もたちの食生活や身体づくりを本当に考えておられることを感じることができました。

子どもたちも好き嫌いが少なくなったり、身体も丈夫になったりと、目に見える効果が表れ、保護者の方々も非常に喜んでおられるそうです。

当日の給食の内容は、玄米やヒジキ、魚の煮つけなど。その給食を好んでおかわりする子どもたちにも、また驚きました。

園長先生に「食の理念」を語って頂いて、これは高石市の給食行政を改善する可能性があるのではないだろうかかと期待をいたしました。私達の思いとしては、大阪で最も素晴らしい保育園を作りたいと思っています。特にご両親にこの給食を試食していただきたいと思っています。

「5年待って下さい。今の子が卒園出来る頃、必ず評価されるように頑張ります。」という園長先生の信念をもった力強い言葉が今も心に残っています。

文：畑中